

【復興1次】被災地(宮城県利府町)における PFIを活用した交流センター整備等事業に関する支援等業務

内閣府 民間資金等活用事業推進室

目的

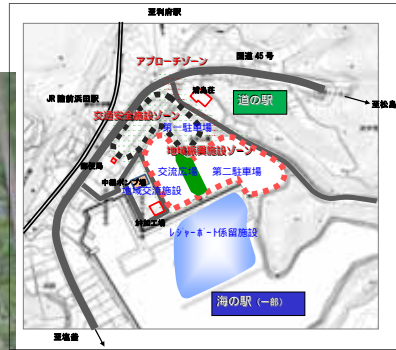
東日本大震災により津波浸水被害を受けた利府町沿岸地域の復興を推進するために観光ルートである国道45号や仙石線陸前浜田駅沿いに「(仮称)浜田復興交流センター」の整備を行う。

当該施設では、利府町沿岸の2漁港等で水揚げされる水産物や水産加工物、並びに利府町農産物の販売や来訪者等への飲食の提供を行い、周辺地域との交流を図ることで復興を推進するものである。

当該地区は、「特別名勝 松島」の区域内であり、当該場所における景観はもちろんのこと、年間200万人超の来訪者が訪れる観光地への玄関口にあたる。この場所に「復興のシンボル」として当該施設を整備することにより、大多数の来訪者を呼び込み、地域の活性化へつなげる。

案件概要

対象施設



震災復興事業と並行的に「道の駅」を中心とした交流センター事業を実施し、漁港区域を中心に地域の早期復興を目指す。

事業の早期実現(早期開業)を目指し、公有地を中心とした「第一段階」事業を優先的に実施し、「第二段階」事業は望ましい土地利用を形成するため公有地に接する「民有地」を含めた一体の区域で実施する。

利府町地区及び利府町民が主体的に参加可能な事業を導入し、浜田地区を中心に利府町全体に事業効果が相乗的に浸透し、地域産業の振興、雇用の場の創出につながる事業を実施する。

三陸の交通動脈である国道45号と連携し、全国で地域振興に寄与している事業実績がある

「道の駅」整備事業の導入により、交通安全・道路防災機能の向上と、仙台都市圏の都市住民や松島湾観光客との交流の場を形成する。

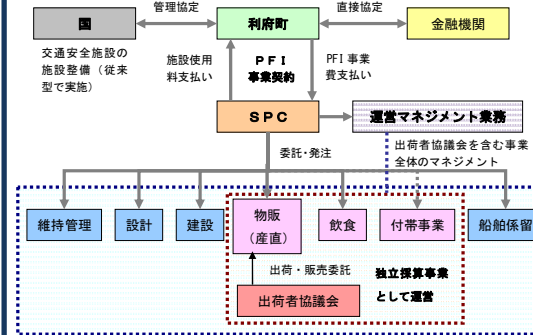
漁港区域の震災復興事業と合わせてレジャーボートの係留対策の管理条例の制定が予定されていることを踏まえ、レジャーボートの景観対策及び効果的な管理をめざし「海の駅」の一部を取り込んだ計画とする

主要施設

交通安全施設	駐車場 トイレ 非常用施設
地域振興施設 (第一段階)	駐車場 トイレ 農林水産物・特産品販売所 飲食施設 オープンデッキ 屋根付き通路 展望テラス(屋上)
レジャーボート係留施設	係留船舶

検討結果

(仮称)浜田地区交流センター整備事業スキーム(案)



VFM試算結果例

VFM (現在価値) 百万	基本 ケース	ケース [50% 増加]	ケース [100% 増加]	ケース [50% 減少]
	5.0億 円	7.5億 円	10.0 億円	2.5億 円
PSC	872	872	872	872
PFI-LCC	812	708	635	940
VFM(金額)	60	164	237	68
VFM(割合)	6.91 %	18.82 %	27.20 %	7.78 %

事業化に向けた課題・展望

・(仮称)浜田地区交流センター事業は、交通安全、防災、地域交流、物販、飲食、係留棧橋管理といった多様な機能を有しており、中長期的な視野にたつて各機能間の連携による相乗効果が実現可能であり、PFI事業化するメリットがあるといえる。

・需要リスクがある収益施設の運営や、事業の安定性・健全性確保のためのSPC経営計画等について公共に豊富なノウハウがあるとは言いがたく、評価基準や事業審査プロセス等に関する専門性の確保が課題。事業審査のためのPFI委員会において専門性を補完する有識者等の助言を適切に活用することが原則。

・小規模事業では公共側の検討・事業者選定費用、民間側の提案費用・資金調達費用等のコストが相対的に高むことからVFMや事業効果が発揮されにくい。効率的な実施が必要。

・本事業は、本PFI事業以降も中長期的に拡張の予定はあり、今後の事業が本PFI事業へ影響を与えたり、PFI事業契約が新たな事業の制約となったりする可能性もあり、全体計画に関する町の中長期的な展望を示して民間事業者の理解を醸成するとともに、事業契約締結に際しては、期間中の柔軟な契約変更が可能となるよう契約事項について配慮が必要。